

ハプスブルク帝国末期の連邦再編論と民族自決

福田 宏 hfukuda@slav.hokudai.ac.jp

(北海道大学スラブ研究センター研究員)

はじめに — 1848~1945 年という時間幅で考える

- ◆ ハプスブルク帝国の遺産としての中欧? (Mitteleuropa, střední Evropa, etc.)
- ◆ 危機の時代に登場、伸縮自在 ex. F. ナウマンによる「中欧」
- ◆ スロヴァキア人、ミラン・ホジャ (1878-1944) の中欧論をベースに考える

1. 帝国の「遺産」(第一次世界大戦前夜まで)

1.1 再構成される 1848 年革命の記憶 — 連邦再編に向けた最初の試み?

- O. ハレツキの定義 → ポーランドにおける 400 年の伝統?
- F. パラツキーによる構想 → ハプスブルク帝国という「大枠」の必要性を強調
- L. コシュートから O. ヤーシへ → ハンガリーのプランの「限界」

1.2 社会主義者による多元的連邦案

- 「小インター」としてのオーストリア社会民主党 → ブルノ綱領 (1899)
- カール・レンナーによる属地・属人原則の複合案『諸民族の自決権』(1918)
- オットー・バウアーによる社会主義的民族理論『民族問題と社会民主主義』(1907)

1.3 被支配諸民族(マイノリティ)による帝国再編論

- A. ポポヴィッチによる『大オーストリア合衆国』(1906) が典型?
属地原則に固執? ドイツ人の区域が 3 つに分かれる

1.4 ベルヴェデーレ・サークルによる帝国再編論(中央集権的改革案)

- 皇位継承者フランツ・フェルディナント大公が主導 → 最大の敵はハンガリー
- オーストリア=ハンガリー二重主義の解消と非マジャール系諸民族との提携

2. 第一次世界大戦の衝撃

2.1 ドイツ帝国方面からの揺さぶり

- ナウマンの『中欧論』(1915) がベストセラーに(自由主義的帝国主義)
- ハンガリー: ハンガリーの自律性、経済領域の拡大、経済利益の有無
- チェコ: オーストリア・ドイツ人への対抗として「中欧」を支持する者も
- ポーランド: オーストロ・ポーランド的解決への期待、ロシアへの牽制

2.2 非ドイツ系諸民族による対抗案の提出

- T. G. マサリクの『新ヨーロッパ』(1918) が一つの形
ドイツとロシアの間における「小さな諸民族の地帯」
独立諸国家によって独・奥・洪に対する「障壁」を形成せよ

3. 戦後の国民国家成立と中欧の復活？

3.1 ヴェルサイユ体制下における新しい国民国家の誕生

各国間の火種、経済活動に対する負の影響、デモクラシーの実験

3.2 新しいタイプの地域再編論と従来型再編論の混交

小協商（チェコスロヴァキア、ルーマニア、ユーゴスラヴィア）

クーデンホーフ＝カレルギーの汎ヨーロッパ構想（1923）

ブリアン覚書（1930）→ 欧州 27 カ国による連邦形成

チェコスロヴァキア農業党を軸とするグリーン・インターナショナル

MAB (Mezinárodní agrární bureau)、4 言語併記の機関誌（1923-38）

当初はスラヴ的組織、20 年代半ばより全ヨーロッパ的組織へ

大恐慌 → ドイツの「生存圏 Lebensraum」→ 中東欧の経済的依存

独がハンガリー、ユーゴスラヴィア、ルーマニアと通商協定（1934-35）

ホジャの対抗案 → 小協商とローマ・プロトコール（伊・洪・澳）の提携（1936）

4. 第二次世界大戦期における中欧再編構想

4.1 亡命政治家による構想（パリ、ロンドン、そしてアメリカ合衆国）

ヨーロッパ合衆国、フェノスカンディア合衆国、バルカン連合 etc.

チェコスロヴァキアとポーランドの国家連合構想：連邦か連合か

クーデンホーフ＝カレルギーのアメリカにおけるロビー活動

オットー・フォン・ハプスブルクのアメリカでの画策（オーストリアの復活？）

国際農民連合（International Peasant Union, London）

中東欧計画委員会（Central and Eastern European Planning Board, N.Y.）

カギを握っていたのはソ連 → 1941 年 6 月独ソ戦勃発、42 年夏頃より否定的姿勢

4.2 一事例としてのホジャの連邦構想

ベネシュとの政争に敗れ、アメリカへ → 「遺書」としての中欧連邦構想（1942）

4 つのスラヴ諸国（ポーランド、チェコスロヴァキア、ブルガリア、ユーゴ）と

4 つの非スラヴ諸国（オーストリア、ハンガリー、ルーマニア、ギリシア）

連邦大統領、連邦首相、各大臣ポストの設置、各国議会議員から成る連邦議会

民主主義の基軸として農民を想定

完全な自由経済ではなく、一定の計画制を取り入れた「混合経済」

おわりに

- ◆ 帝国そのものは解体されたが、「中欧的なるもの」という遺産が残った？
- ◆ 1989 年以降における中欧論ブームと衰退？ — 危機が消滅したから？
- ◆ 欧州統合の前史として再検討 — 「西側的自由主義」の枠を超えて

主要参考文献一覧（邦語文献を多めに）

- 板橋拓己『中欧の模索：ドイツ・ナショナリズムの系譜』創文社、2010年
- 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会、2008年
- 遠藤乾、板橋拓己編『複数のヨーロッパ：欧州統合史のフロンティア』北海道大学出版会、2011年6月刊行予定
- R. オーキー、山之内克子訳、秋山晋吾監訳『ハプスブルク君主国』NTT出版、2010年
- 篠原琢「地域概念の構築性：中央ヨーロッパ論の構造」家田修編『開かれた地域研究へ：中域圏と地球化』（講座スラブ・ユーラシア学1）講談社、2008年、pp.119-141.
- 田口晃、福田宏（解説・解題・抄訳）「カール・レンナー著『諸民族の自治権』1918年」『北大法学論集』（1）53巻2号、pp.207-260、（2）53巻3号、pp.131-167、2002年、（3・完）53巻5号、pp.285-317、2003年
- 辻河典子「ヤーシ・オスカルルの1920年代初頭における地域再編構想：『ドナウ文化同盟』（1921年）を手がかりに」『ヨーロッパ研究』8号、pp.63-82、2009年、など
- 戸澤英典「パン・ヨーロッパ運動の憲法体制構想」『阪大法学』53巻3/4号、pp.979-1013、2003年など
- 中田瑞穂「議会制民主主義への突破と固定化：経路・課題・結果」『名古屋大学法政論集』（1）226号、pp.1-45、（2）228号、pp.157-207、2008年、（3）237号、pp.153-190、2010年、（4・完）238号、pp.147-207、2011年
- オットー・バウアー、丸山敬一他訳『民族問題と社会民主主義』御茶の水書房、2001年
- 羽場久混子「ハプスブルク帝国の再編とスラブ民族問題：『東・中欧連邦化』構想とスラブ民族の『共存』の試み」『社会労働研究』32巻2号、pp.45-95、1986年など
- 林忠行「戦略としての地域」家田修編『開かれた地域研究へ』（既出）pp.91-118.
- 広瀬佳一『ヨーロッパ分断1943：大国の思惑、小国の構想』中公新書、1994年
- （福田宏『身体の国民化』北海道大学出版会、2006年）
- 福田宏「ミラン・ホジャの中欧連邦構想」（投稿準備中）
- A. ポロンスキ、羽場久混子監訳『小独裁者たち：両大戦間期の東欧における民主主義体制の崩壊』法政大学出版局、1993年
- ジャック・ル・リデー、田口晃・板橋拓己訳『中欧論』文庫クセジュ、2004年
- カール・レンナー、太田仁樹訳『諸民族の自決権』御茶の水書房、2007年
- ジョセフ・ロスチャイルド、大津留厚監訳『大戦間期の東欧』刀水書房、1994年
- Peter Bugge, “The Use of the Middle: Mitteleuropa vs. Střední Evropa,” *European Review of History* 6:1 (1999), pp.15-34.
- Janez Cvirn, Jure Gašparić, “Friedrich Naumanns Konzept ‘Mitteleuropa’ und sein Echo in der Habsburgermonarchie,” In: J. Marušiak, et al (eds.), *Integračné a dezintegračné procesy v strednej Európe v 20. storočí* (Bratislava, 2008), pp.18-30.
- Milan Hodža, *Články, řeči, štúdie* [論文・講演・研究] (Praha, 1930-34), 7 (6) vols.

- Milan Hodža, *Federation in Central Europe: Reflections and Reminiscences* (London: Jarrolds Publishers, 1942).
- George D. Jackson, Jr., *Comintern and Peasant in East Europe 1919-1930* (Columbia University Press, 1966).
- Miroslav Jeřábek, *Za silnou střední Evropu* [強力な欧州を求めて]: *Středoevropské hnutí mezi Budapeští, Vídní a Brnem v letech 1925-1939* (Praha, 2008).
- Robert A. Kann, *The Multinational Empire: Nationalism and National Reform in the Habsburg Monarchy, 1848-1918*, vol.2: *Empire Reform* (New York: Octagon, 1964).
- Dušan Kováč, “Milan Hodža: vom Belvederekreis zum Föderationsgedanken im Zweiten Weltkrieg,” In: Richard G. Plaschka, et al (eds.), *Mitteleuropa-konzeptionen in der Ersten Hälfte des 20. Jahrhunderts* (Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 1995), vol.1, pp.165-170.
- J. Kuklík, J. Němeček, *Hodža versus Beneš* [ホジャ vs.ベネシュ] *Milan Hodža a slovenská otázka v zahraničním odboji za druhé světové války* (Praha, 1999).
- Walter Lipgens (ed.), *Documents on the History of European Integration*, vol.2: *Plans for European Union in Great Britain and in Exile 1939-1945* (Berlin, 1986).
- Pavol Lukáč, *Milan Hodža v zápase o budúcnosť strednej Európy v rokoch 1939-1944* [中欧の将来をめぐる闘争におけるホジャ 1939-44年] (Bratislava, 2005).
- Vojtech Mastny, “The Historical Experience of Federalism in East Central Europe,” *East European Politics and Societies* 14:1 (1999), pp.64-96.
- Dagmar Moravcová, *Československo, Německo a evropská hnutí 1929-1932* [チェコスロヴァキア、ドイツ、欧州運動] (Praha, 2001).
- Miroslav Pekník (ed.), *Milan Hodža a integrácia strednej Európy* [ホジャと中欧の統合] (Bratislava: Veda, 2006). 2005～07年まで3回行われたホジャ・シンポジウムの一冊
- Christian Rühmkorf, “‘Volkswerdung durch Mythos und Geschichte’: Die deutsch-slavischen Beziehungen bei Friedrich Naumann und T. G. Masaryk,” *Bohemia* 41:2 (2000), pp.295-325. その他、本号には中欧関連の論考が4本収録
- Rudolf Schlesinger, *Federalism in Central and Eastern Europe* (London: Routledge, 1998). Reprint. First published in 1945.
- Helga Schultz, Angela Harre (eds.), *Bauerngesellschaften auf dem Weg in die Moderne: Agrarismus in Ostmitteleuropa 1880 bis 1960* (Harrassowitz, 2010).
- A. Štefánek, F. Votruba, F. Seda (eds.), *Milan Hodža: Publicista, politik, vedecký pracovník* [ミラン・ホジャ：ジャーナリスト、政治家、学者] (Praha, 1930).
- Peter M. R. Stirk, *A History of European Integration since 1914* (Continuum: London/ New York, 1996).